

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営 (国際貿易体制史と米国) Economics and Business (World Trade System History and U.S.)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 小山久美子 /Eメールアドレス:k-koyama@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部本館 608 / オフィスアワー: 毎週木曜日1時50分～2時30分 または授業終了後に教室で受け付ける			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 我々の生活にとって国際貿易は必要不可欠である。国際貿易の自由化を推進してきた体制、組織の歴史を、米国を軸に考察する。また、現在の世界貿易機関(WTO)に関して、諸問題も考えていく。 授業方法: 2冊の教科書を使用し、それらに沿って主として講義形式で行うが、受講学生の参加が求められる場合もある。授業で扱う事項のほか、補足的な事項についても、予習、復習、ならびに原則として毎回提出の課題を通じての学習が必要である。 授業到達目標: 国際貿易に関し、その体制史について自分の言葉で説明できるようにする。そして、国際貿易問題に関して自分なりの問題意識を持ち、考えることができるようにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 第二次大戦後、国際貿易体制は、米国主導のもと、GATTにより支えられてきた。現在はGATTを引き継いだWTOが存在している。だが、WTOには様々な批判が寄せられている。WTOは世界にとり重要な国際機関であるが、推進者の検討のみならず、どのような批判的議論があるのかも考察していく。 第1回 講義ガイダンス(進め方・成績評価など)、保護貿易主義と自由貿易主義 第2回 第二次大戦後の国際貿易体制、関税と貿易に関する一般協定(GATT)設立 第3回 GATTの成果、数々の多国間交渉(ラウンド) 第4回 世界貿易機関(WTO)の設立へ向けてーウルグアイ・ラウンドー 第5回 WTOー新分野、新たなトレンドー 第6回 WTOー新たな変化、紛争処理機能などー 第7回 WTO 推進者(1) 歴史的経緯を含む 第8回 WTO 推進者(2) “ 第9回 WTO 推進者(3) “ 第10回 WTOへの反対ー米国内ー 第11回 WTO問題ー途上国の立場ー 第12回 WTO問題ー二国間・地域主義ー(1) 第13回 WTO問題ー二国間・地域主義ー(2) 第14回 近年の状況、今後の展望 第15回 まとめ (毎回の講義内容は、進行状況などにより変更の場合がある)			
キーワード	国際貿易体制、歴史、米国		
教科書・教材・参考書	教科書)村上直久『WTO』平凡社、2001年。石見尚・野村かつ子『WTOーシアトル以後』緑風出版、2004年。		
成績評価の方法・基準等	授業貢献度(平常学習状況、授業内の提出課題学習など)70% 最終試験 30%		
受講要件(履修条件)	毎回、真摯に学習に取り組むことができる学生(遅刻、退出、飲食、私語不可)		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	予習、復習が必要である。		